

礼拝式文

式文表記について

（起立）の表記のある箇所は、起立なさってください。ただし、お身体のご都合のある方は、お座りになったままで結構です。

また、司式者）あるいは司）とあるのは司式者、会衆）あるいは衆）とあるのは司式者以外の会衆、全員）あるいは全）とある箇所は、司式者も含めて全員が唱和する箇所です。

2011年2月制定

日本福音ルーテル仙台教会

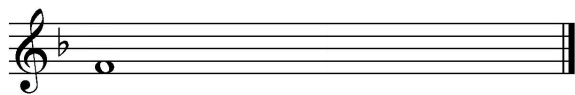
開会の部

前奏（着席）《ローソクに点灯》

1. 初めの歌（着席）《讚美歌は、その日の週報に書いてあります》

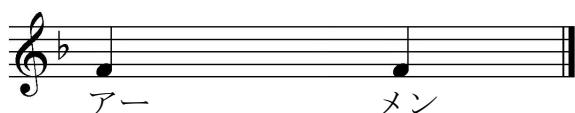
2. み名による祝福（着席）

司式者)



父と子と聖霊のみ名によって、

会衆)



3. 罪の告白の勧め（着席）

司式者) 私たちは 父なる神のみ前に まごころをもって近づき、罪をざんげし、主イエス・キリストのみ名によって赦しを願いましょう。

4. 罪の告白（着席）

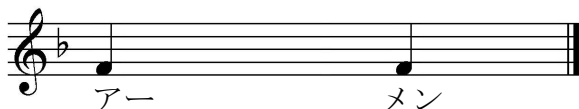
司式者) 父なる全能の神よ。

全) 私たちは生まれながら罪深く、けがれに満ち、思いと言葉と行ないによって 多くの罪を犯しました。私たちはみ前に罪をざんげし、父なる神の限りない憐れみに より頼みます。

5. ゆるしの祈願祝福（着席）

司式者) ひとりのみ子イエス・キリストを死に渡し、すべての罪を赦された憐れみ深い神が、罪を悔い み子を信じる者に、赦しと慰めを与えてくださるように。

会衆)



6. キリエ〔主よ〕（着席）



司) 主よ、あわれんでください。 会衆) 主よ、あわれんで ください。



司) キリストよ、
あわれんでください。 会衆) キリストよ、
あわれんで ください。



司) 主よ、あわれんでください。 会衆) 主よ、あわれんで ください。

7. グロリア〔栄光〕（着席）

※待降節、四旬節は省略します。



司) 1. 天には栄光 か み に 衆) 地には平和
み心に かなう ひ と に

全) 2. 主をあがめ、 主をあ お ぎ 主をおがみ、主を た た え ます。



3. 主なる神、天の王、 ち ち よ。 主の大いなる
全能の 栄光に 感 謝 し ます。



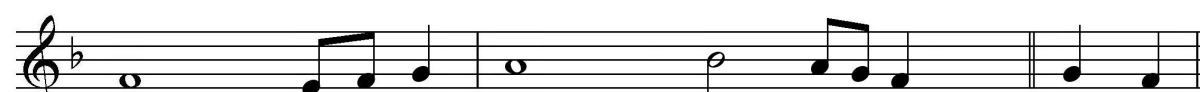
4. 主イエスキリスト、 父のみ子 神の小羊
神の ひ と り 子 世の罪を取り除く 主 ー よ。

5. 私たちを あわれんで く ださい。 私たちの祈りを聞いて くだ さい。

6. 父の右に おられる 主 ー よ。 私たちを あわれんで くだ さい。



7. 聖にして ただ ひ と り の 主、 いと高き キ リ ス ト。

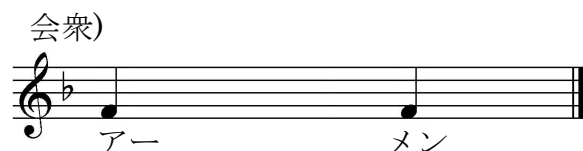


8. 主は、聖霊と と も に、 父なる神の 栄光の う ち に。 アーメン

みことばの部

8. 特別の祈り（着席）《特別の祈りは、その日の週報に書いてあります》

司式者）祈りましょう。



9. 第一日課の朗読（着席）

朗読者）本日の初めの朗読は、〇〇書〇〇章〇〇節から始まります。

——（初めの日課）—— 日課を終わります。

10. 第二日課の朗読（着席）

朗読者）本日の第二の朗読は、〇〇書〇〇章〇〇節から始まります。

——（第二の日課）—— 日課を終わります。

11. 福音書の朗読（起立）

朗読者）本日の福音は、〇〇書〇〇章〇〇節から始まります。

——（日課）—— 本日の日課を終わります。

12. みことばの歌（着席）《讃美歌は、その日の週報に書いてあります》

司式者）本日のみことばの歌として、〇〇を歌いましょう。

13. 説教（着席）

説教者）私たちの父なる神と主イエス・キリストから恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

——（説教）——

説教者）人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るように。

14. 信仰の告白《ニケヤ信条・使徒信条》（着席）

（一）ニケヤ信条（着席）

司式者）ニケヤ信条によって、信仰の告白を共にしましょう。

全員）

われは唯一の神、全能の父、天と地、すべて見ゆるものと見えざるものの造り主を信ず。われは唯一の主イエス・キリストを信ず。主はよろずの世のさきに、父より生まれたる神のひとり子、神よりの神、光よりの光、まことの神よりのまことの神、造られずして生まれ、父と同質にして、すべてのものは主によりて造られたり。主はわれら人類のため、また、われらの救いのために天より下り、聖霊によりておとめマリヤより肉体を受けて人となり、われらのためにポンテオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受けて葬られ、聖書に従い三日目によみがえり、天に上り、父の右に坐したまえり。また、生ける人と死にたる人とをさばくために、栄光をもって再び来たりたまわん。そのみ国は終わることなし。

われは主にして、いのちの与え主なる聖霊を信ず。聖霊は父と子とよりいで、父と子とともに拝みあがめられ、預言者によりて語りたまひし主なり。われは唯一の聖なる使徒たちより伝わりしキリスト教会を信ず。われは罪のゆるしのための唯一の洗礼を信認す。死者のよみがえりと来世のいのちを待ち望む。（アーメン）

（二）使徒信条（着席）

司式者）使徒信条によって、信仰の告白を共にしましょう。

全員）

われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず。

われはそのひとり子、われらの主イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生れ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死にて葬（ほうむ）られ、陰府（よみ）に下り、三日目に死人のうちよりよみがえり、天に上り、全能の父なる神の右に坐したまえり、かしこより来たりたまいて、生ける人と死にたる人とを、さばきたまわん。

われは聖霊を信ず。また、聖なるキリスト教会・聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。（アーメン）

奉献の部

15. 奉献（着席）

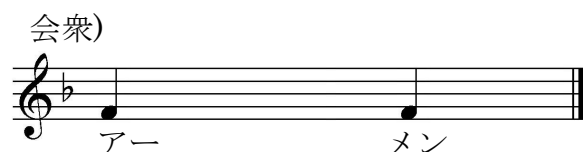
司式者）主にささげましょう。

16. 奉献の祈り（着席）

奉献当番）主よ。ここにささげる感謝と奉仕のしるしを祝福してください。どうか、あなたの栄光のために、私たちのすべてを用いてください。

——（ここに教会の祈りを加えても良い）——

あなたと聖霊と共にただひとりの神であり、永遠に生きて治められるみ子、主イエス・キリストによって祈ります。



※聖餐式を行わない礼拝では、以下の主の祈りを祈ってから、派遣の部の **25. 祝福**（10 ページ）へと進みます。

★ 主の祈り（起立）

司式者）祈りましょう。

全員）

天にましますわれらの父よ。

願わくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来たさせたまえ。

みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日ごとのかてを今日も与えたまえ。

われらに罪を犯すものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。

アーメン

聖餐の部

17. 序詞（着席）

司式者) 会衆)



主が共に、おられるように。^{*}またあなたと一同に
心をこめて主をあおぎましょう。^{*}主をあおぎます。
主に感謝しましょう。^{*}感謝はふさわしいことです。

18. その日の序詞（着席）

司式者) 聖なる主 全能の父 永遠の神よ。いつどこでも、あなたに感謝するのは当然であり、またふさわしいことです。

——特別序詞——

今、地にあるすべての教会は、あなたのみ名をあがめ、永遠の賛美を天にある天使の群れと共に 声を合わせて歌います。

19. サンクツウス〔聖なる〕（着席）

全員）



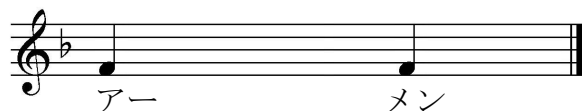
20. 聖餐の設定（起立）

司式者）

私たちの主イエス・キリストは苦しみを受ける前日、パンを取り、感謝し、これを裂き、弟子たちに与えて言われました。「取って食べなさい。これはあなたがたのために与える私のからだである。私の記念のため、これを行ないなさい」。

食事ののち、杯をも同じようにして言われました。「取って飲みなさい。これは罪の赦しのため、あなたがたと多くの人々のために流す私の血における新しい契約である。私の記念のため、これを行ないなさい。」

会衆）



21. 主の祈り（起立）

司式者）祈りましょう。

全員）

天にましますわれらの父よ。

願わくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来たさせたまえ。

みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ。

われらの日ごとのかてを今日も与えたまえ。

われらに罪を犯すものをわれらがゆるすごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

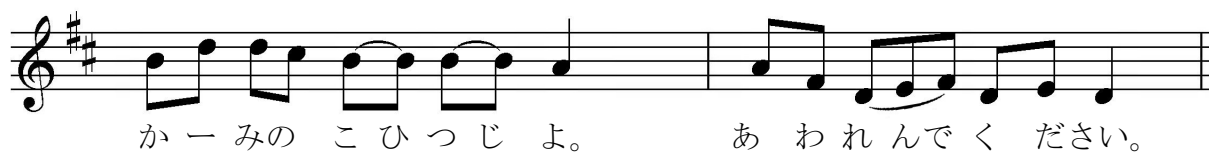
われらを試みに会わせず、悪より救い出したまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。

アーメン

22. アグヌス デイ〔神の小羊〕（着席）

全員）



23. 聖餐への招きと聖餐（着席）

司式者）どの教会でも洗礼をお受けになった方は、この聖餐にあずかることができます。聖卓へお進みください。また、まだ洗礼を受けておられない兄弟姉妹は、祝福をいたします。

司式者）あなたのために与えられた キリストのからだです。

陪餐者）アーメン

司式者）あなたのために流された キリストの血です。

陪餐者）アーメン

司式者）私たちの主イエス・キリストのからだとその貴い血とは、信仰によって、あなたがたを強め、守り、永遠のいのちにまで至らせてくださいます。

陪餐者）アーメン

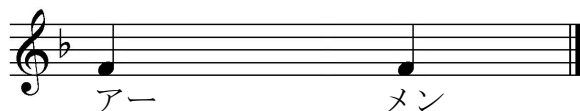
24. 聖餐の感謝（着席）

司式者）

全能の神よ。

この救いの賜物をもって、新たな力を与えてくださったことを感謝します。恵みによって、私たちがますます主を信じ、また互いに愛をもって仕えることができるように、私たちを強めてください。あなたと聖霊と共にただひとりの神であり、永遠に生きて治められるみ子、主イエス・キリストによって祈ります。

会衆）



派遣の部

25. 祝福（起立）



司式者) 主をたたえよう。 会衆) 神に感謝 します。

司式者)

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。（～守られます。）

主がみ顔をもってあなたを照らし、あなたを恵まれるように。（～恵まれます。）

主がみ顔をあなたに向け、あなたに平安を賜るように。（～平安を与えられます。）

父と子と聖霊のみ名によって。

会衆)



アー メン アー メン、ア ー ー メン

26. 終わりの歌（着席）《讚美歌は、その日の週報に書いてあります》

後奏（着席）《ローソクを消灯》

礼拝式文について

- ・ 礼拝の形式化が長い信仰の伝統の結晶であり、その定式化が個人化をふせぎ、また、自分自身にも、客観的に信仰を言い聞かせる働きがあった。自由な礼拝は形式化し、形式がある礼拝は内容が自由になる。

前奏

- ・ 特定の旋律を特定の主日、季節と結びつけてきた。前奏は、最初の賛美歌に基づく曲

開会の部

- ・ 会衆が歌う賛美歌はルターの宗教改革の特色。母国語を用いて賛美する礼拝。「賛美歌は、会衆が行う説教である」（ルター）
- ・ み名による祝福 礼拝が三位一体の神の臨在の下に行われることの宣言
- ・ 罪の告白（ざんげの部） 礼拝への「心」の準備。対人関係における行為、個人的なものから、神に対する行為、信仰者の共同行為としてとらえられている。
- ・ キリエ 神の恵みと慈しみを前にした時に、わたしたちの欠けの多さと不適格さを痛感する心からの叫びとして出てくる最後の言葉、切なる願い。
- ・ グロリア・イン・エクセルシス（天に栄光） 礼拝の中に臨在されるイエス・キリストの神聖への賛美。この礼拝が、主の受肉とあがない、絶えざる執り成しの出来事であることの表明。待降節と受難節には省かれるのが普通。

みことばの部

- ・ 特別の祈り（主日のいのり） その日のテーマに基づいて、神の恵みがみことばの朗読と説教の中で現実のこととして、今の「出来事」となる。その準備のための祈り。
- ・ 聖書朗読と説教 礼拝の第一の中心。教会暦に基づく。教会暦は救済史。本来、礼拝中に絶対に起立するのは、福音書朗読と聖餐式の「設定辞」。
- ・ みことばのうた 聖書日課と結びつく歌。
- ・ 説教 ルーテル教会が、説教を礼拝の重要な位置に回復した。
- ・ 信仰告白 この信仰において我らは集い礼拝し、み言葉に生きています、という確認と宣言。

奉献の部

- ・ 神にすべてを与えられたその恵みへの、感謝の自己奉献。本来、「奉献」＝キリストの犠牲」。ルターは新しい意味を付け加えた。すなわち、犠牲であるより喜びの応答。
- ・ 古くは、奉献のいのりの前に「教会のいのり」が置かれていた。未信者は、ここで退出し、続いて聖餐の部にはいる。

聖餐の部

- ・ 本来は、聖餐の部が礼拝の中心であった。「見える言葉（パンとぶどう酒）」と「見えない言葉（説教）」の一元性。
- ・ その日の序詞 イエス・キリストのみ業をたたえるもの。
- ・ サンクトゥス（とベネディクトゥス） 聖なるかな（サンクトゥス）と恵みあれ（ベベディクトゥス）
- ・ 聖餐の設定 ルターは、聖書に記されている言葉を用いて簡略化した。
- ・ 主のいのり 歴史的に、主の聖餐の設定に引き続いて、それと不可分の関係をもって主のいのりがとなえられてきた。それは、主のいのりの「日毎の糧」を「聖体＝聖餐」と理解してきた。
- ・ アグヌス ディ（神の小羊） イエスが神の小羊として十字架で流された血が「罪からの解放」の新しい約束であり、そのしるしとして最後の晩餐でぶどう酒を聖別されたことを確認。
- ・ 倍餐 コイノニア（キリストにおけるお互いの交わり）。最後の晩餐の迫体験。

派遣の部

- ・ ヌンク ディミティス（今こそ去ります） シメオンの賛歌。再び、キリストによって遣わされた場所に帰っていく。
- ・ 祝福 神から人への祝福。

洗礼式

1 勧め

司式者) 恵み深い天の父は、洗礼によって私たちを主イエス・キリストに結びつけその死と復活と共に、私たちを罪と死から解き放ってください。罪の子として生まれた私たちは、洗礼によって神の子として新しく生まれ、永遠のいのちを継ぐものとされます。水と霊によって、キリストのからだである教会の肢(えだ)とされ、主と共に、また主の民と共に生き、神のみ旨に従う者へと育てられます。

(教保、保護者に)あなたがたは、キリストにある信仰と愛を持って、この兄弟姉妹〇〇を、洗礼にあずからせるためにここに伴いました。

あなたがたは、彼(ら)と神の家の礼拝を共にしつつ、教会の交わりを保ち、彼(ら)のために心をくばり、神のみ旨にしたがって彼(ら)を助け、イエス・キリストの日まで共に洗礼の恵みの約束のうちに生活しなさい。

(幼・小児の受洗者がいる場合)また、この子供らが成長するに従って、その手に聖書を持たせ、主の祈り・使徒信条・十戒を教え、堅信に至るまでキリストの信仰を堅く育てなさい。

2 祈り

司式者) 洗礼を受けるためみ前に進み出たこの(幼子・兄弟・姉妹)〇〇のために祈りましょう。

全能・永遠の神、主イエス・キリストの父よ。この幼子・兄弟・姉妹のためにお願ひします。どうか、この幼子・兄弟・姉妹に、洗礼の賜物と生まれ変わりの洗いによる永遠の恵みを与えてください。愛する御子によって「求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。」と約束してくださったように、彼(ら)とその願ひを受け入れてください。

御子、主イエス・キリストによって祈ります。

3 聖書

司式者) 聖なるみことばを聞きましょう

(一) ローマ 6:3～4

(二) マルコ 10:13～16

(三) ヨハネ 3:3～6

4 主の祈り (洗礼が、礼拝式以外の場合、一同と共に)

5 宣言

司式者) 主と会衆の前で、あなた(がた)にたずねます。

あなたは、悪魔とその力とそのむなしい約束をことごとくしりぞけますか。

答) 「はい、しりぞけます。」

司式者) 全能の父なる神をあなたは信じますか。

答) 「はい、信じます。」

司式者) 聖霊を信じますか。また聖なる公同教会、聖徒の交わり、罪の赦し、からだの復活、永遠のいのちを、あなたは信じますか。

答) 「はい、神の助けによって」

6 授洗

司式者) 私たちの主イエス・キリストは言われました。

「わたしは天と地の一切の権能を授かっている。だから、あなたがたは、行って、全ての民を私の弟子にしてください。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を受け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」

〇〇。私は、あなたに洗礼を施します。父と、子と、聖霊のみ名によって。

「アーメン」

司式者) あなたのすべての罪を赦し、水とみ霊とによってあなたがたを新たに生まれさせてくださった全能の神、私たちの主イエス・キリストの父が、永遠のいのちに至らせる恵みによって、あなたを強めてくださいます。

7 受洗者のための祈り

司式者) 私たちの主イエス・キリストの父なる神。洗礼によって、罪の力から解かれて新しい命を与えられ、この幼子・兄弟・姉妹が、み国に世継ぎの一人として、受け入れられました恵みと御心に感謝します。みことばと霊の糧によって彼・彼女(ら)を育て、日ごとに、あなたと共にある喜びを豊かに与えてください。御子、私たちの主イエス・キリストによって祈ります。

8 新しいしるし

司式者) 〇〇。聖霊によって刻印された神の子であるあなたに、キリストの十字架をしるします。(☆☆。これがあなたに与えられる洗礼名です)。

9 教会員への勧め

司式者) 神は、洗礼によってこの☆☆〇〇(または、幼子・兄弟・姉妹)をキリストの家族、み国の世継ぎとしてくださいました。この幼子・兄弟・姉妹を受け入れ、この幼子・兄弟・姉妹のうちに始められた神の御業が達成されるように祈ってください。

堅信式

1 勧め

司式者) 私たちの主イエス・キリストは、洗礼によってあなたを受け入れ、キリストのからだである教会の肢としてくださいました。みことばによって、神の愛と全ての被造物に対する神のみ旨を学んだあなたは、教会においても、この世の生活においても、信仰によって大きな任務にあずかり、主の復活の証人となってください。

2 表明

司式者) 今、あなたに尋ねます。あなたは洗礼において神が与えられた約束に堅く立ち、御言葉を聞き、聖餐にあずかり、神の忠実な民の中に行き、聖霊の賜物に従って主のために身を献げて、分に応じて働き、言葉と行ないによって、キリストにおける神の救いを宣べ伝え、神の国の正義と平和の確立のために努めますか。

堅信者) 「はい、神が私を助け、導いてくださるように。」

司式者) 教会の兄弟姉妹共に、あなたの信仰を告白しなさい。

全員) —— 使徒信条（この式文の 4 ページ） ——

3 堅信者のための祈り

司式者) 水と御霊によって、新しいいのちを与え、罪から解き放ってくださった全能の神、憐れみ深い父。聖霊によって、この兄弟・姉妹を力づけ、恵みの賜物により、知識と知恵、思慮と勇気、主を知り、主に従い、主と共にいることを喜びとする心を彼・彼女(ら)に満たしてください。御子、私たちの主イエス・キリストによって祈ります。

堅信者) 「アーメン」

4 按手

司式者) 天の父よ。主イエス・キリストによって、この☆☆〇〇(またはこの兄弟・姉妹)のうちに、あなたの聖霊の賜物を奮い起こし、その信仰を堅くし、その生活を導き、神と主に仕えるように強め、苦難を超えて永遠のいのちに至らせてください。

堅信者) 「アーメン」

5 堅信者への勧め

司式者) 聖霊の証印を受けたあなた(がた)は、主にあってその偉大な力によって強くなりなさい。救いの兜をかぶり、御霊の剣すなわち神の言葉を取り、福音に仕えなさい。

6 教会員への勧め

司式者) この兄弟・姉妹を恵みによって育ててくださった神の感謝し、彼・彼女(ら)を祭司の一人、み国の同労者として受け入れ、共の福音の使節となるように、互いに祈りなさい。

7 祈り（教会を代表して信徒のひとりが祈ってもよい）

司式者) 全能・永遠の父なる神。この☆☆〇〇(または、この兄弟・姉妹)のために、また先例によってあなたの約束のうちに生きるすべての者のために祈ります。どうか、私たちが聖霊によって強くされ、あなたの恵みと真理に堅く立ち、教会の信仰とその交わりを保つよう、私たちを導いてください。あなたの霊の賜物を与えて、一人ひとりをこの世に遣わし、あなたの愛を証しするよう励ましてください。こうしてあなたの教会の栄光を輝かし、私たちを平安のうちに導いてください。御子、私たちの主イエス・キリストによって祈ります。

アタナシウス信条

1. 救われたいと願う者はみな、すべてのことに先立って、公同の信仰を保つことが必要である。
2. この信仰を完全に、汚すことなく守るのでなければ、疑いもなく、永遠に滅びる。
3. 公同の信仰とは、唯一の神を三位において、三位を一体においてあがめ、
4. 位格を混同せず、本質を分離しない信仰である。
5. 父の位格、子の位格、聖霊の位格はそれぞれ異なる。
6. しかし、父と子と聖霊の神性は一、栄光は等しく、尊厳は永遠。
7. 子と聖霊は父と同じである。
8. 父は造られたものでなく、子も造られたものでなく、聖霊も造られたものではない。
9. 父は測り知れず、子も測り知れず、聖霊も測り知れない。
10. 父は永遠、子も永遠、聖霊も永遠。
11. しかも永遠なものは、三でなく一。
12. 造られないものが三あるのではないように、測り知れないものも三あるのではなく、造られないもの、測り知れないものはただ一つ。
13. 父は全能、子も全能、聖霊も全能。
14. しかも全能なものは、三でなく一。
15. このように、父は神、子も神、聖霊も神。
16. しかも、神は三ではなく一。
17. このように、父は主、子も主、聖霊も主。
18. しかも主は三ではなく一。
19. キリスト教の真理によって、それぞれの位格を、個別に神であり、主であると告白することが求められており、三神三主について語ることを、公同の信仰によって禁じているからである。
20. 父はなにものから成ったのでも、造られたのでも、生まれたのでもない。
21. 子は父からのみ生まれたのであって、成ったのでも、造られたのでもない。
22. 聖霊は父と子から出るものであって、成ったのでも、造られたのでも、生まれたのでもない。
23. だから、父は一であって三ではなく、子も一であって三ではなく、聖霊も一であって三ではない。
24. また、この三位一体においては、どれが先でどれが後、どれが大でどれが小ということはない。
25. むしろこの三位格はみな、ともに永遠で、同等である。さきに述べたとおり、すべてをとおして、三位が一体において、一体が三位においてあがめられるのである。
26. それゆえ、救われたいと願う者はみな、三位一体について、そのように信じなければならない。
27. さらに、われわれの主イエス・キリストの受肉についても、正しく信じることが、永遠の救いのために必要である。
28. 正しい信仰とは、われわれの主イエス・キリストが神の子であって、神であり人であることを、われわれが信じ告白することである。
29. 神であるというのは、すべての世に先立って父の本質から生まれたことであり、人であるというのは、この世に母の本質から生まれたことである。
30. キリストは完全な神であり、完全な人であって、理性的な魂と人間の肉をとっていて、
31. 神性にしたがえば父と等しく、人性にしたがえば父より小さい。
32. 神であり人であっても、ふたりのキリストではなく、ひとりのキリスト。
33. 神性が肉に変わったからではなく、神のうちに人性をとったから、ひとりのキリスト。
34. 本質の混同によってではなく、位格が一であるから、ひとりのキリスト。
35. 理性的な魂と肉とがひとりの人となるように、神と人とがひとりのキリストになっている。
36. キリストは、われわれの救いのために苦しみを受け、よみに下り、死人の中から復活し、
37. 天に昇り、父の右に座し、そこから来て、生きている人と死んだ人とをさばく。
38. 主が来ると、すべての人はからだをもって復活し、おのおの自分の行ないについて申し開きをするのである。
39. 善を行なった人は永遠のいのちに入り、悪を行なった人は永遠の火に入る。
40. これが公同の信仰である。これを忠実に、また確実に信じる者でなければ、救われることはできない。